

# カンボジアの児童養護施設と幼稚園について

横井 一之

## 要旨

2011 年 8 月、2013 年 8 月にカンボジアの児童養護施設を訪問し、見学、交流を行った。カンボジアの幼児がどのように生活し、どのように成長しているかを学ぶことにより、カンボジアが背負う負の遺産の大きさに気付いた。この一国では背負えない状況を援助するために、日本からは J I C A やいくつかの N P O が教育支援活動に参加している。

本稿では、1 章で筆者が実際に見学、交流を行った状況を示し、2 章でカンボジアの幼稚園や保育園の現状についてまとめ、3 章で J I C A 等の活動を紹介し、4 章で考察をする。

キーワード：国際交流，児童養護施設，幼稚園，カンボジア，J I C A

## 1. カンボジアの児童養護施設や幼稚園を訪問して

筆者は 2011 年 8 月、N 保育園長および S 大学学生とともにカンボジアシェムリアップ市の児童養護施設等を訪問、見学、交流を行った。また、2013 年 8 月、N 保育園長、保育士、保育者養成施設の教員とともに、シェムリアップ市の児童養護施設等、プノンペン市の小学校（3～4 歳の幼児から中学生ぐらいまで通学）を訪問、見学、交流を行った。その様子は以下のである。

### 1・1. 2011 年 8 月の訪問にて

#### 1・1・1. 児童養護施設 B O C (Bright smiles Of Children)

##### (1) 活動内容

##### ① 交流会

職員、児童と訪問者があいさつを交わした。「施設が生まれて 5 年です。4 年ほど借家で生活しました。（注：2005 年 NPO 設置）日本からの支援で建物ができて幸せです。」など説明があった。

次に B O C の児童が日本語で「こんにちは。私は～です。～才です。ありがとうございます」と挨拶をした。

続いて、学生はカンボジア語で「私は～です。よろしくお願いします」と挨拶した。他の者は日本語で同じように挨拶し、ツアーガイドがカンボジア語に通訳した。

##### ② 運動会

S 大学学生 8 人の企画により、児童 15 人との合同運動会を行った。準備体操、ボール運び競走、玉入れ、パン食い競走、得点発表水組 9 点、翠組 13 点、翠組の表彰式、翠組の児童がメダルを受け取った。

### ③ 昼食会

訪問者のうち、学生以外の者が力を合わせ、学生が運動会を行っている間に、BOCの厨房をお借りして昼食を作った。メニューは、八宝菜、唐揚げ、鈴ドーナツである。

### ④ 交流会（演芸会）

訪問者がリコーダー演奏、パネルシアター上演、手品上演、合唱を行った。一方、BOCの児童、職員はロニアット・アエック（木琴）、コーン・トム（環状ゴング）、トロー・チャー（胡弓）、スコー・トム（樽型太鼓）を用いて、民族演奏をして下さった。

### ⑤ プレゼント等

訪問者は、持参した帽子、タオル、お菓子等をプレゼントした。また、BOCは子どもが製作した飾り物、オリジナルTシャツ等を販売した。

## （２）まとめ

S大学生8人は、半分以上が同年2月に続き2度目の訪問であるが、2月以降ありがたいという意味の「オークン」クラブを発足させ、カンボジア語の学習も深め、より深い交流をめざしたとのこと。その甲斐あって、BOCの児童も学生の歌、会話をとても楽しく聞いた。学生はとてもよい経験、学びをしていると思った。

## 1・1・2. クローサ・トメイ（Crousar Thmey「新しい家族」という意味）

### （１）活動内容

#### ① 交流会（文化）

歌、リコーダー演奏、手品上演、パネルシアター上演を行った。

#### ② プレゼント

折り紙、お菓子、帽子、グローブ、ボール（中日ドラゴンズバージョン）をお土産として差し上げた。

#### ③ 交流会（運動）

園庭で学生がフォークダンスを児童と一緒にやった。男児のうち、元気のよい子はグローブをはめてキャッチボールを行った。なかなかのスピードボールを投げ、「将来プロ野球デビューする子がいるかも」という声もあがった。筆者が昆虫網を土産に持参したので、一部の男児が興味を示し捕獲した。蝶々がのんびりしているためか、子どもが俊敏なためか、短時間に結構な数の蝶々が採れた。

## （２）まとめ

BOCより開設が早く、子ども同士の人間関係はより安定していると感じた。野球のボールの扱いも慣れているようで、建物をバックにしてボールを投げるときも落ち着いて投げていた。

なお、事務所に掲げてある日課表は以下の表1のとおりである。

表 1 日課表（クローサ・トメイ）（時刻表示は掲示板のまま）

1	5:00- 5:30	体操	1	2:00-3:20	図書館か大工、刺繍
2	5:30- 5:45	ミーティング（朝礼）	2	3:30-4:30	英語
3	5:45- 6:00	掃除	3	4:30-5:30	畑
4	6:00- 6:30	シャワー後朝食	4	5:30-6:30	シャワーと夕食
5	6:30- 7:00	登校	5	6:30-7:30	休憩
6	7:30- 8:30	農作業、畑	6	7:30-8:30	踊り（月・火）
7	8:30- 9:20	男子：大工 女子：刺繍、図書館			楽器（月・火・木）
8	9:30-10:30	英語の授業	7	7:30-8:30	テレビ（土、日）
9	10:30-11:30	シャワー	8	8:30-10:00	就寝時刻
10	11:30-12:30	昼食			
11	12:30- 2:00	休憩			

表 2 ハッピー・ファミリー・ハウスHP<sup>1)2)</sup>より

カンボジアのシェムリアップにクルサー・リッリエイ孤児院があります。

シェムリアップには世界遺産のアンコールワットがあり、毎年たくさんの旅行者が世界中から集まってくる有名な観光地です。カンボジアは長く続いた内戦の影響で、家族制度が崩れていて家族と離れて暮らさなければならない子供が多いので、多くの孤児院があります。クルサー・リッリエイ孤児院も、たくさんある孤児院のひとつですが、孤児院の運営の方法が多少違います。カンボジアにある孤児院の多くはカンボジア国内外のNGO団体によって運営されている孤児院であるのに対して、クルサー・リッリエイ孤児院はカンボジア人と外国人の個人の支援によって支えられている孤児院です。クルサー・リッリエイ孤児院にはお母さんのトーラエムさんを中心に現在41人の子供たちが生活しています。この孤児院はお母さんを中心とした大家族のような施設であり、孤児院のことを Happy Family とも呼んでいます。

### 1・1・3. 児童養護施設ハッピー・ファミリー・ハウス

#### （1）活動内容

##### ① 交流

訪問者は合唱、パネルシアター、手品、リコーダー等を演奏した。児童は「幸せなら手をたたこう」を英語で歌った。

## ② プレゼント

訪問者は帽子、タオル、昆虫網、折り紙、お菓子などをプレゼントした。

## (2) まとめ

上記表2はハッピー・ファミリー・ハウスのHPにある説明である。

以上、筆者には初めてのカンボジア訪問であり、子ども達の現状に強く打たれるものがあった。なお、本稿では児童養護施設を孤児院と同意義語として表記する。

## 1・2・2013年8月の訪問にて

筆者2度目の訪問である。児童養護施設の状況については、2年間BOCのHPに常時目を通し、関心を持ち続けたつもりだった。しかし、同じ子どもの施設として幼稚園、保育園はどうなっているかを調べたいと思った。その意味では、プノンペン市で小学校の訪問が日程にあったので、より深く見学できるのではと期待をもった。

### 1・2・1. 児童養護施設BOC (Bright smiles Of Children)

#### (1) 活動内容

##### ① 交流会

今回の訪問者は現役保育者である。まず児童と訪問者があいさつを交わした。その後、ぶんぶんごま、バルーンアート、風車を製作した。ツアーガイドが通訳して、すべての児童が製作を楽しんだ。続いて、英語の手遊び、トランペットとリコーダー合奏が演じられた。筆者は、日本から持参した絵本とソーラーライトをリーダーに手渡し、若干の説明を加えた。

##### ② 昼食会

訪問者がBOCの厨房を借りて昼食を用意した。メニューは、酢豚、豚の唐揚げ、パンケーキ、スイカと瓜である。酢豚は保育園の給食そのもので、大変好評であった。2年前の八宝菜で使った豚肉は新鮮過ぎたのと、包丁で切ったので肉が厚すぎて野菜が負けてしまったので、やや日本のものと違和感があった。

##### ③ 手品鑑賞

プロのマジシャンDさんによる手品を昼食後鑑賞した。結んだ紐が頭の上まで通り過ぎたり、金属の輪が重なったり離れたり、トランプがだんだん小さくなっていってしまったり、そして最後はマジシャンと児童代表が布地の裾をもった手品台が大きく空中を舞った。カンボジアの児童、訪問者ともに感動のひとつである。

##### ④ プレゼント

訪問者は、持参した帽子、タオル、お菓子等をプレゼントした。また、BOCは子どもが製作した飾り物、オリジナルTシャツ等を販売した。

## (2) まとめ

2年前の訪問では、我々を迎え入れて下さった日本人の理事長さんがいらっしゃらなくなった。日本の景気のせいだと思われるが、日本からの支援が減り、現状では施設を支えきれなくなったとのことである。実際、以前はテレビで「カンボジアに学校を作ろう」という宣伝をよ

く目にしたが、現在は下火である。

訪問先を見学するだけでは、カンボジア社会、経済がどれぐらい活発になってきているかわからないが、物価が上昇しているのも事実で、同じ支援でも昨年より今年、今年より来年の方が予算をより必要とすると聞いた。

援助の先行きが不透明で不安な中で、リーダーが2年前より確実に頼もしく育っていることを心強く感じ、BOCを後にした。

### 1・2・2. 児童養護施設ハッピー・ファミリー・ハウス

#### (1) 活動内容

##### ① 交流会

ぶんぶんごま、バルーンアート、風車を製作した。ツアーガイドが通訳して、すべての児童が製作を楽しんだ。また、英語の手遊び、トランペットとリコーダー合奏も演じられた。

##### ② 手品鑑賞

プロのマジシャンDさんによる手品を鑑賞した。内容は、BOCにほぼ同じである。

##### ③ プレゼント

訪問者は、持参した帽子、タオル、ソーラーランプ、お菓子等をプレゼントした。

#### (2) まとめ

2年前の訪問時は「連絡しておいたにも関わらず、約束の時間にマザーと呼ばれている園長先生が何処かへ行ったので、地雷博物館見学で時間調整をして訪問した」施設である。前回もマザーは温かいまなざしで訪問者を受け入れて下さった。そして、今回も同じまなざしで温かく迎えて下さった。今回もマザーを訪問すると必ず土砂降りである。8月から雨期が始まり、雨が妨げになるので学校が休みになると聞いた。まったく、それを裏切らない雨である。訪問リーダーは、今回おそらく5、6回目の訪問だと思われるが、「必ずまた訪問しますので」とマザーと固い握手を交わした。「継続は力なり」という言葉を再確認した。

### 1・2・3. VCAO小学校（プノンペン市内VCAOが設置）

#### (1) 活動内容

##### ① 交流

ぶんぶんごま、アートバルーン、風車、お菓子をすべての子どもに手渡した。3歳から小学校3年生ぐらいまでの児童の教室には、100人の子どもが座っていた。明らかに重なり、椅子が狭く感じると思われるが、子どもは慣れていて、あまり問題としない。男児が多いが、時々隣の腕が当たったのが気に食わないのか、殴り合いをする場面はあった。低学年ではトランペットとリコーダーの演奏をした。

高学年から中学校2年生までぐらいの教室には50人名程の児童が入った。前の教室と同じように、児童はぶんぶんごま等で遊んだ。こちらの教室では、英語の手遊びをした。徐々に手遊びのスピードが速くなっていく事に、児童は大喜びだった。トランペットとリコーダーの合奏を吸い込まれるように聞いた。

## ② 手品鑑賞

プロのマジシャンDさんによる手品を鑑賞した。子どもの人数が多すぎるので、1つの教室では全員が鑑賞不可能である。よって、運動場で校舎を背後、つまりDさんが東を向く位置関係で、手品を演じた。内容は、BOCにほぼ準じるが、会場が広くなったので、後方から児童、職員が鑑賞するにもかかわらず、マジックの種はまったく分からず、ただただ不思議で感心するばかりである。

### (2) まとめ

ここはNPO (Non Profit Organization=非営利組織) VCAO<sup>3)</sup> (Vulnerable Children Assistance Organization VCAO=弱い子供たち援助組織) の運営する小学校である。校長先生に子どもの年齢を尋ねると、3歳から14歳ぐらいとおっしゃった。3つある教室のうち、真ん中の教室の入り口の上に“Pre-school”(5歳児クラス、幼稚園)と表示があるのみであった。その教室の中で、筆者は校長先生に挨拶し、日本から持参したソーラーランプを手渡した。この教室は職員室であり、幼児の保育室のようであった。前述したように、向かって左が低学年の教室、右が高学年の教室である。

**表3 プノンペン市内の幼稚園の日課(つじさん<sup>4)</sup>の資料から編集)**

7 : 3 0	子どもたちが次々に登園
7 : 4 5	園庭に集まって、国旗掲揚、国歌斉唱
8 : 0 0	保育室で、朝の会 「今日は何日?」「何曜日?」部分的に英語も取り入れる。 歌をうたったり、踊ったりする。
休憩	おやつを買いに行く 手洗い(衛生指導)
保育活動	算数、文字、図工、理科、詩、
1 0 : 0 0	降園準備

**表 4 VCAO小学校（幼稚部）日課**

VCAOの生活	
8：00～ 9：00	クラスの時間
本と鉛筆をもってきましょう。	
新しいものがほしいときは、先生に申し出て下さい。	
9：00～10：00	遊び
14：00～15：00	クラスの時間
本と鉛筆	
15：00～16：00	遊び

## 2. カンボジアの幼稚園

つじさんによると、幼稚園の日課は表3のようである。

前述したように、筆者が見学した小学校には幼児も出席していたが、教室の看板に表示してあった日課は表4の通りである。

1人の子どもの小学校での学習時間は2時間である。小学校は2部制で、子どもは午前または午後出校する。筆者らが訪問したときは、我々の訪問のために午前の部がかなり延長したと考えられる。

2011年からシェムリアップに派遣されている青年海外協力隊員さやかさんのブログは、マタイサハコムという幼児施設のある日のカリキュラムを次の表5の様に示している。

**表 5 マタイサハコムの日課(2011.7.4.頃)<sup>5)</sup>**

(7：30～10：45)
1. 朝の会
2. 遊び
3. 毎日の活動（天気、曜日、子どもの調子の確認など）
4. 算数（数の指導）
5. 休憩
6. 実験（理科）
7. 歌

さらに、「という風に、本当に細かく決められているのです。」と、結んでいる。なお、マタイサハコムではこの後、食事が提供されるところもあるらしい。このマタイサハコムは、JICAシルバーボランティア楠輝義氏<sup>6)</sup>、青年海外協力隊員富永典子さんによると村教育（寺子

屋)といい、1つのマタイサハコムに1人の保育者が配置されている。

シェムリアップ州には、幼稚園、マタイサハコムの他に幼児施設として、地域家庭教育があり、富永さんによれば2010年度現在、それぞれの施設数、子どもの数、保育者の数は以下表6のとおりである。

**表6 それぞれの施設数、子ども数、保育者数（2010 シェムリアップ州）**

	幼稚園	村教育・ マタイサハコム	地域家庭教育
施設数	1 8 7	8 6	—
子ども数(人)	9, 4 9 2	2, 2 4 9	4, 8 6 1
保育者数(人)	3 0 3	9 0	—

シェムリアップ州で2010年度に何らかの幼児施設に通う子どもが11,602名、5歳児になっても幼児施設に通っていない子どもが7,105人である。11,602人の人数が表6と一致しないし、この人数は5歳児のみでないので、就園率は求められていない。ただ、国の目標として、次の表7のように掲げられている。

**表7 就学（原文のまま）率の目標（2009）**

2010年度までに3～5歳児の就学率を30%、5歳児は50%の就学
2015年度までに3～5歳児の就学率を50%、5歳児は75%の就学

表5のさやかさんによると、「マタイサハコムの先生には、なんと……10日間の研修を受けなければならぬのです!!」また「こんな研修を10日間受けたら、いざ先生に。そうしたら一つのマタイサハコムを任されるわけです。そこには先生は1人だけ。決められたカリキュラムを見て、教科書を見て、自分で保育をしなければなりません。」「幼稚園なら他の先生もいるけれど、尋ねる先生もいない中でその先生がすべて進めなければならない。」ということだ。

同じく表5のさやかさんによると、幼稚園は5歳児で60人クラスがあり、そして次に同じ幼稚園を訪問したときには72人クラスになっていたとのことだ。その理由として、保護者から「この幼稚園以外は遠くて通わすことができないから、どうしても入園させてほしい」と頼み込まれることを上げている。さらに、幼稚園の保育者が多忙な理由として「他の小学校の先生と話をし書類を書いたり、子どもは消しゴムを取られたと言ってケンカしたりする」と書いている。そして、「2クラスにして下さいと懇願したい」とまとめている。



### 3. JICA等の活動について

JICA<sup>7)</sup>はホームページを見ると「JICAは、日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う実施機関として、開発途上国への国際協力を行っています。『すべての人々が恩恵を受けるダイナミックな開発』というビジョンを掲げ、多様な援助手法のうち最適な手法を使い、地域別・国別アプローチと課題別アプローチを組み合わせ、開発途上国が抱える課題解決を支援していきます。」という組織である。2013年8月のカンボジア訪問中にプノンペンにあるカンボジア事務所を訪問して、貴重な資料を得た。その際、大変お忙しい中、的確にリファレンスして下さったコーディネーターOさんに、紙面ではあるが謝意を述べたい。

表3のつじさんと表5のさやかさんはJICAの職員としてカンボジアでご活躍なさった。お二人のブログを読む限りでは、3年間の違いだが、その間に前任者からの努力の蓄積のおかげで、日本の保育方法への理解、その有効性への理解が深まり、カンボジアの保育者に受け入れられるようになってきたことがよく理解できる。ただ、Oさんに伺ったところでは、「中等教育以後の理数科教育にJICAカンボジア事務所の活動の重点が置かれ、現時点では幼児教育の担当者はいません」とのことだった。これまでの幼児教育の関係者のご努力により拡充がひとまず落ち着いたので、とりあえず、理数科教育に重点を移したと理解した。

#### 3・1. NGO・CYR（幼い難民を考える会・CARING FOR YOUNG REFUGEES）<sup>8)</sup>

峯村は<sup>9)</sup>「カンボジアの幼児教育では、20を越える海外及び現地NGOが活動している。日本のNGO『幼い難民を考える会（CYR）』は農村と、首都の貧困層が多く住む地域で、保育所運営に協力している。『万人のための教育』の方針により政府機関では、幼児教育への関心が高まっているが、予算難と人材不足で教育問題の改善には時間を要している。CYRは、プノンペン市郊外とカンダール州で運営する、保育所4カ所の卒園児を対象に……」と記述している。

また、清水<sup>10)</sup>らは、「CYRは1980年に難民キャンプでの活動をきっかけとして設立され、以来一貫して子どもたちの心と体の発達することを目的としてカンボジアで活動を続けている。現在は、保育園運営、現地NGOとの協力、幼稚園協力の再トレーニング、教材の作成と普及などの活動を行っている。そうした活動の中では、現地の人が自立して運営していけるようなシステムを作ること、そして、自国の文化や習慣に合ったものを自分たちの手で作り上げていけるようにすることを大切にしている。」と記述している。

#### 3・2. シャンティ国際ボランティア会<sup>11)</sup>

同じく、清水<sup>10)</sup>らは「1996年設立の国立教員養成校附属の幼稚園で、3～5歳まで計6クラス、約157名（内女兒：約80名）が通っている。園児は主に公務員・NGO職員・自営業の家庭の子どもであるが、日本のNGOシャンティ国際ボランティア会（SVA）の支援（1人あたり1ヶ月4万リエルの保育料補助）を受けて、ストリートチルドレンの子どもも25名在籍している。（以下）略」と記述している。

#### 4. 考察

清水<sup>10)</sup>らによると、公立幼稚園3園での調査において「保育で重要なこと」は、①集団のルールを守る、②読み書きの修得、③小学校入学準備、④保護者からの自立を促すことである。私立幼稚園3園の調査でも同様である。カンボジアでは、子どもは有効な労働力であるので、幼稚園に行かせるには②読み書きの修得、③小学校入学準備という明確な理由づけが必要である。これは、表5の日課表にも表れており、算数、理科など実用的、かつ学習効果がわかりやすい内容が取り上げられている。

このことは、小学校以上の学校についても当てはまり、絶えず学校での学習と子どもの労働力は天秤にかけられた状態にあり、その結果中退者が多く、中学校卒業までたどりつくことができるものは、小学校入学者の半分にも満たないということも耳にした。

一方、幼稚園教師の給料だが月 US\$24 ほどであり、教師の給料だけでは生活できないという。また、ポル・ポトによる制裁のせいで現在の人口比は女性の方が大きく、よって小学校教育でさえ男性教師の比率は高くない。幼稚園教師はほとんど女性である。

プノンペン市の裕福な家庭の子どもは、英語で保育する「アメリカンキンダーガーデン」「アメリカンスクール」へ通うという。実際、ある女兒の誕生パーティーに参加させていただく機会をプノンペン市で得たが、参加者は老若男女ともにバイリンガルで、我々と英語で会話した。このようにカンボジアの方が英語を自由に操れることは、クメール文化を破壊したポル・ポトの重罪の裏返しだと言える。

本稿では、資料としてカンボジアで活躍する青年海外協力隊員等のブログを多用させていただいた。関連の方々には紙面ではあるが謝意を表したい。カンボジアの教育関係の文献はあるが、教育状況は日々変化しており、今、この時に実状を見ている方のリアルタイムの記述は、大変有効なものであり、役立つことが分かった。また、ブログ著者の一部の方には、帰国後実際に会いしてインタビューさせていただいた。あわせて謝意を表したい。

#### 引用文献

- 1) Happy Family House HP <http://www.cambodiahappyfamily.org>, (アクセス 2013. 9).
- 2) 支援団体・我孫子アニマHP [http://www.abi-anima.org/Cambodia/carrier\\_sponsor.html](http://www.abi-anima.org/Cambodia/carrier_sponsor.html), (アクセス 2013. 9).
- 3) V C A O－弱い子供たち援助組織、HP <http://www.vcao.org.kh>, (アクセス 2013. 9).
- 4) つじ「そくさばーい No.5」HP [http://members3.jcom.home.ne.jp/jocv.youkyou.nw/pdf/sokusabai\\_5.pdf](http://members3.jcom.home.ne.jp/jocv.youkyou.nw/pdf/sokusabai_5.pdf), (アクセス 2009. 4).
- 5) さやか「カンボジア L I F E 空はつながっているよ～」HP <http://sayaka271.blog33.fc2.com>, (アクセス 2011. 7. 4).
- 6) J I C A・S V 19 年度第4次隊 楠輝義「シェムリアップの教育」(2010) 青年海外協力隊 20 年度3次隊員 富永典子「楽しい幼稚園～生きた保育を作ろう～」, シェムリアップ

州教育・青年・スポーツ局.

- 7) JICAカンボジア事務所 HP <http://www.jica.go.jp/cambodia/office>, (アクセス 2013. 9).
- 8) 幼い難民を考える会 (Caring for Young Refugees) HP <http://www.cyr.or.jp/index.html>, (アクセス 2013. 9).
- 9) 上田広美他 (2012) 「カンボジアを知るための 62 章【第 2 版】」, 明石書店.  
P122 峯村里香「厳しい環境で育つ子どもたち」より.
- 10) 清水由記・外山紀子・松井由佳 (2007) 「カンボジアにおける幼児教育」  
科学研究費補助金基盤研究 (B) 研究成果報告書.
- 11) シャンティ国際ボランティア会 (SVA) HP <http://sva.or.jp>, (アクセス 2013. 9).

## 参考文献

- マルロー (2000) 「王道」, 講談社文芸文庫.
- 周達観 (1989) 「真臘風土記」, 東洋文庫.
- 石澤良昭 (2009) 「アンコール・ワットへの道」, JTBパブリッシング.
- 山田 寛 (2004) 「ポル・ポト＜革命＞史」, 講談社選書メチエ.
- 高山良二 (2010) 「地雷処理という仕事」, ちくまプリマー新書.
- 青年海外協力隊幼児教育ネットワーク (2005) 「おおらかがいっぱい」青年海外協力協会.
- 福森哲也 (2012) 「ミャンマー・カンボジア・ラオスのことがマンガで 3 時間でわかる本」, アスカ.
- 工藤律子 (2008) 「子どもたちに寄り添うーカンボジア薬物・HIV・人身売買との闘い」, JULA出版局.
- 幼い難民を考える会 (2010) 「カンボジア・子どもたちとつくる未来」, 毎日新聞社.
- 山本敏晴 (2005) 「あなたのたいせつなものはなんですか?」, 小学館.

# Cambodian Orphanages and Kindergartens

Kazuyuki YOKOI

We visited some Cambodian orphanages and interacted with their kindergartners and staff in August 2011 and August 2013.

Learning how the infants in Cambodia live and grow up, I realized the large scale of negative legacies that Cambodia has. NPOs and JICA from Japan participate in the educational support activities in Cambodia to help solve difficult problems that this country alone cannot solve.

This paper consists of four parts. In Chapter 1 the real situations of the Cambodian infant education are shown; in Chapter 2 the present state at Cambodian kindergartens and nursery schools is outlined; in Chapter 3 the activities of organizations like JICA are introduced; and in Chapter 4 the Cambodian infant education is dealt with.

Key Words : international exchanges, orphanages, kindergartens, Cambodia, JICA